

## 鶴見区区政会議 平成28年度第1回地域コミュニティ・保健福祉部会

### 1 日時

平成28年6月9日（木） 19時20分～

### 2 場所

鶴見区役所 4階 402会議室

### 3 出席者

（委員）

久木部会長、早野副部会長、笹原委員、佐藤委員、西村委員、正脇委員

（区役所）

萩副区長、小川地域活動支援課長、嶋原保健福祉課長、貴志生活支援担当課長、

浅田保健福祉課保険担当課長代理、西田保健福祉課福祉担当課長代理、

八木保健福祉課生活支援担当課長代理、金森保健副主幹兼保健福祉課担当係長、

泉谷地域活動支援課担当係長、小谷地域活動支援課兼保健福祉課担当係長、

河本保健福祉課担当係長、岡田保健福祉課担当係長、古田保健福祉課担当係長、

揚保健福祉課担当係長、高階保健福祉課担当係長

### 4 議題

1. 平成27年度鶴見区運営方針自己評価について

### 5 議事

開会 19時20分

○泉谷地域活動支援課担当係長 ただいまより鶴見区区政会議平成28年度第1回地域コミュニティ・保健福祉部会を開会いたします。

私、本日の司会を務めさせていただきます地域活動支援課担当係長の泉谷です。どうぞよろしくお願いたします。

それでは早速ですけれども、これより議事進行を久木部会長にお願いいたします。

○久木部会長　それでは、改めまして、久木です。本日、28年度1回目ということでどうぞよろしく願いいたします。

こうしていると、全体会から一気に部会になると、顔が全部近くにあってすごくしゃべりやすいですね。一つ楽にして、どしどししゃべっていただきたいなと思いますのでよろしく願いします。

○泉谷地域活動支援課担当係長　平成27年度の鶴見区運営方針の自己評価は、運営方針に記載の戦略等具体的取組につきまして、それぞれの目標の達成状況を点検いたしております。資料は1～3それぞれ、ばらばらにできるようになっていますので、ご覧いただきたいと思います。

資料ごとにページ数がうってありますので、順番に説明させていただきます。

まず、それぞれの目標の達成状況を点検しまして、有効性を評価することにより、必要な施策の改善と見直しを行い、次年度の運営方針や予算編成への反映を図ることを目的に行っております。鶴見区で行いました自己評価の前に、本日お配りしました委員評価シートの説明をさせていただきます。

これまで運営方針の評価につきましては、区役所が自己評価を行いまして、それに対して委員の皆様からご意見を伺ってございましたけれども、今回はぜひ、委員の皆様から直接評価をいただきたいというふうに考えております。つきましては、本部会でそれぞれの取組みの説明をお聞きいただいた上で、この委員評価シートにより、委員の皆様ご自身で具体的取組の評価を行っていただきたいと考えております。お忙しい中大変恐縮ではございますが、何とぞご協力いただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

まず、委員評価シートの記入の仕方をご説明いたします。

この表の左の欄に区としてめざす状態を記載しております。その右横に27年度中にそれぞれの事業で実施した取組みを載せております。黒い白抜きになった記入例にありますように、それぞれの取組みが、めざす状態の実現にとっても有効であったと思

う場合は二重丸、やや有効であったなと思う場合には丸、どちらともいえない場合は三角、有効でなかったと思う場合にはバツを記入していただき、取組みに対するご意見ございましたら一番右の欄に自由にお書きください。また、その取組みのことがよくわからなくて評価がしにくい場合には、ハイフンを入れていただければ結構でございます。この地域コミュニティ・保健福祉部会では、経営課題の2と5を所管しておりますので、そこを中心にわかる範囲でご記入いただけましたら結構でございます。ご協力のほどよろしく願いいたします。ご提出につきましては、お忙しい中申しわけございませんが、6月末とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

次に、区役所が行った自己評価と27年度中に実施した具体的取組についてご説明させていただきます。

委員の皆様には既に全ての課題の自己評価シートをお送りしておりますけども、今日は特に部会の所管の課題につきまして、資料2「区運営方針自己評価シート説明資料」と、資料3「平成27年度鶴見区の主な取組み」によりご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

では、それぞれの事業担当より説明をさせていただきます。

**○小谷地域活動支援課担当係長** 皆さんこんばんは。地域活動支援課の担当係長でございます小谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私のほうからは、資料2の2ページ目と資料の3の14ページ、経営課題2 地域コミュニティの活性化についてご説明をさせていただきたいと思っております。

戦略2-1 地域全体で支え合うコミュニティづくりでございますが、幅広い人たちが参加しやすい魅力ある地域活動が行われ、CB/SBの活用など自律的な地域運営を行う地域コミュニティを増やすといたしますのが、おおむね3年から5年間を念頭に設定しためざす状態でございます。

そのための取組み内容といたしましては、各地域に担当職員を複数名配置し、自立した地域運営に向けた支援を中間支援組織と連携して行う。また地域活動に関するさ

さまざまな情報を収集・把握し、広く区民や地域活動団体にPRする。さらに地域活動のCB/SB化など地域の自主財源確保に向けた支援を行っていきました。

これらの取組み内容に対する主な取組実績でございますが、まず1つ目が会計の透明性に向けた勉強会、これが12地域でございます。2つ目、地域活動団体に交付した公金の使途を区ホームページで公表、これも12地域でございます。3つ目、地域活動事例などの情報発信、こちらは随時行っております。また地域向けの広報事業勉強会、10回。それと一番最後になります、CBやSB起業に関する支援、2地域が取組実績でございます。

お手元の資料3、こちらの写真が入っているほうをご覧くださいませでしょうか。先ほど取組実績のところでも申し上げましたもののうち、主なものをこちらの資料に掲載しております。地域活動事例等の情報発信では、つるばた会議の開催を実施し、地域向けの広報事業勉強会では、資料の下段の広報勉強会、各地域で広報勉強会やまちあるきを開催し、地域の小ネタを広報に生かしていただいているというような状況でございます。特に茨田北の地域では、まちあるきをした後に地域の広報紙にそのようなネタを載せて、広く茨田北地域の中で広報したというようなこともございます。

すみません、また資料の2のほうに戻っていただきたいのですが、主な取組実績の一番下、CBやSB起業に関する支援、2地域とございますが、こちらのほうは榎本地域で小規模多機能型の居宅介護施設「みつるぎの里」がこの5月にオープンしたんですが、そのオープンまでの関係機関との調整ですとか補助金の申請、また打ち合わせの参加等の支援をこれまで行ってまいりました。また焼野地域では朝市が開催されましたが、その際の公園の許可申請の助言ですとか部会の出席等、そういった点を支援していったところでございます。

続きまして業績目標のところでございますが、地域活動協議会の取組み等地域活動への理解が進んだと回答した区民の割合60%以上を目標としていまして、目標に対する達成状況は67.4%となっております。この67.4%の数字でございます

が、昨年実施しました区民アンケートの結果でありまして、地域活動への理解が進んだと感じる、どちらかといえば感じるをあわせた数字となっております。

最後に、資料2の上段のほうにございます戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況でございますが、地域活動協議会の取組み等、地域活動への理解が進んだと回答した区民の割合を平成29年度までに70%以上をめざしていきまして、平成26年度が47.8%、27年度は先ほど申しました67.4%と順調に推移していると考えております。

私のほうからは以上でございます。

**○揚保健福祉課担当係長** では続きまして、保健福祉課高齢者支援担当の揚と申します。よろしくお願いいたします。

私のほうから経営課題5、資料2でいいますと8ページです。そして資料3では28ページをご準備ください。8ページと28ページになります。

では、経営課題5 健康で安心して暮らせるまち、戦略といたしまして、住みなれた地域で人権を尊重し安心して暮らせる地域福祉の推進ということになっております。私からは、その下の具体的取組の目標達成状況5-1-1 認知症・障がい等への理解の啓発というところをご説明させていただきます。

まず、取組み内容といたしましては、高齢者支援専門部会、認知症地域連携連絡会による認知症高齢者への理解を深めるための講演会を1回、障がい者支援関連の福祉フォーラム等の開催を2回としておりました。

そして、実際の取組実績でございますけども、お手元の資料3のお写真が載っているほうをご覧ください。その順番に資料2のほうに載っております。まず障がいのほうからになりますけども、平成27年9月10日に鶴見区民センター大ホールにおいて「援助を深める事例研究の意義と方法」と題しまして講演会を実施いたしました。当日は大阪市立大学の岩間伸之教授をお招きし、障がい者福祉分野の支援者を主な対象として実施しまして、約100名の参加をいただきました。

対人援助につきましては、障がい者や高齢者が主人公となりその援助の過程を支援者が寄り添い、一緒に歩むことが大切ですが、往々にして支援者がクライアントを障がい者や高齢者などそれぞれの分野に押し込めて、支援者側の立場からとらえがちになってしまうこと、そして支援の困難な事例に対してどう援助していくか等の講演の内容になっておりました。講演の後にはグループに分かれてワークショップを実施いたしました。

この講演会を通じまして、参加者が支援者としての役割を的確に把握し、スキルの向上を図ることで、障がい者や高齢者にとって住みよい環境をクライアントとともにめざす心構えを得ていただいたと思います。また、この講演会で学んだことを活用、実践するために、27年度中に事例検討会を実施してまいりました。

続きまして、左の下のチラシの内容になりますけども、12月2日に鶴見区民センター小ホールにおいて「障がいのある人が地域で暮らすために～強度行動障がいのある人の支援～」と題しまして講演会を実施いたしました。

強度行動障がいの支援の第一人者であります飯田雅子先生をお招きしまして、第1部では「強度行動障がいの軽減への取組み」として基調講演を行い、第2部では「親として～強度行動障がいのある子どもの子育て～」についてのシンポジウムを開催しました。参加者は100名になりました。ビデオ上映やシンポジウムでは、実際に強度行動障がいをお持ちの方の体験談等を見聞きしまして、障がいのある方たちにとっては障がい理解され、人として受容される中に適切に踏み込まなければならない、また不足している分については施策が十分に整備されていなければならない等のお話がありました。

参加者からは、シンポジウムで具体的に内容が聞けたことや、障がい者はこう接すべきという理解ではなく、一人の人として生きていくために必要なかわりをしなければならぬし、またそう願うというご意見をいただきました。

では次、高齢者にかかる啓発事業になりますけども、写真の右上になります。平成

27年11月28日に「区民で支えよう認知症」講演会を区民センター小ホールにて鶴見区医師会さんと共同で開催いたしました。約200名の方にご参加いただきました。

第1部では阿武山病院の森本一成先生に認知症の基礎知識とその介護についてご講演いただきまして、第2部では鶴見区医師会の先生方や地域の介護事業所の方とともに、在宅医療介護についての討論会を行っていただきました。認知症の方が住みなれた地域で長く住み続けていくことについて皆さんとともに考える時間となりました。このときは認知症だけでなく、これからの超高齢化社会に向けて自宅での介護と医療についての内容も加えて開催させていただきました。

5-1-1の最後「つながろうふれあいフェスタ」になります。1月30日、「つながろうふれあいフェスタ」を鶴見区民センター大ホールと小ホールで開催させていただきました。330の方にご参加いただきました。国が提言しています地域包括ケアシステムに向けまして、多様なつながりを醸成していきたいと考えまして、高齢者支援団体と障がい者支援団体が協働して初めて実施した啓発事業になります。大ホールでは盲導犬の手引き体験とか点字体験、各種啓発ブースや作業所の物販を行いました。小ホールでは当事者の方々や支援グループ等による舞台発表をしていただきました。特にこの小ホールでは会場一体となりまして、とてもすばらしい感動的な舞台となりました。区役所も含めて私たち実行委員からのメッセージとして、この「つながろうふれあいフェスタ」の開催の経過や、福祉にはみんなのつながりが必要だと思ふこと等お伝えすることができまして、福祉やお互いのつながりについて考える機会となりました。今年ももう一度、この舞台の感動をお伝えしたいという実行委員の方々の思いのもと、開催に向けて準備をしているところでございます。

最後に資料2のほうに戻っていただきまして、今お話ししましたのが主な実績の取組みの詳細でございます。当初の取組みで高齢者支援専門部会等の講演会で1回となっていますが、「つながろうふれあいフェスタ」も実績ございましたので追加して

載せさせていただいています。業績目標といたしまして、講演会等で認知症や障がい者に対する理解を深めたと回答した参加者の割合65%目標のところ、アンケート等を通じまして、認知症への理解を深めた割合93%、高齢者や障がい者への理解を深めた割合89.2%でございました。目標達成状況は以上でございます。

私からは以上でございます。

**○高階保健福祉課担当係長** 保健福祉課高齢者支援担当の高階です。よろしくお願ひします。

私からは、資料2の同じ8ページ、5-1-2 高齢者虐待対応力の向上と、資料3の29ページ部分について説明させていただきます。

資料2をご覧ください。5-1-2 高齢者虐待対応力の向上。取組み内容です。地域包括支援センター職員や福祉専門職員のスキルアップを図るとともに、区民啓発に取り組む。事例検討会12回。高齢者虐待に関する講演会の開催1回としております。

主な取組実績です。資料3の写真をご覧ください。事例検討会については、高齢者対応、高齢者支援担当職員の対応力の向上のため、区内の3包括職員、2ブランチ職員と区役所担当者をメンバーとし、定例で毎月第4木曜日、2時から3時に事例検討会や勉強会を実施しました。昨年度のテーマは高齢者虐待ケースの事例検討、また弁護士を講師に呼び、高齢者虐待支援における法律相談、歯科医師を講師に呼び、高齢者の口腔衛生について、また消防署職員を講師に呼び、高齢者の救命救急について等、幅広い内容で実施し、のべ138人の参加がありました。いずれの内容も、「支援にすぐ生かせる内容で知識の習得になった。」「法律相談では、疑問に思うことが解決できた。」「次年度も検討会を継続しスキルアップを図りたい。」と参加者の声が聞かれました。高齢者虐待防止に関する説明会としては、1月22日に地域つなげ隊連絡会を、1月26日に有償ボランティア活動会員養成講座を実施しました。大阪市の高齢者虐待の現状や鶴見区の現状、高齢者虐待のサインや通報、相談窓口等の周知に

ついて説明しました。

目標達成状況です。業績目標は、講演会・アンケートで高齢者虐待問題の理解が深まったと回答した区民の割合60%としています。終了後アンケート調査を実施し、64%の方が高齢者虐待への理解が深まったと回答があり、今後協力していきたい、隣近所のネットワークを築いていくのが大切等の意見が聞かれました。

以上です。

**○古田保健福祉課担当係長** それでは続きまして、私、保健福祉課担当係長の古田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私のほうから、経営課題5-1-3 有償ボランティア制度の定着というところのご説明をさせていただきます。

資料2の9ページ、資料3の30ページをご覧ください。それではご説明をさせていただきます。

介護保険や障害福祉サービスなどの公的制度のはざまといましようか、ちょっとした日常の生活の困りごとを、地域の住民同士が支えあって、助け合いによって補う仕組みとして、この地域有償ボランティア制度を平成25年度に策定させていただきました。平成26年6月より、まちの支えあい活動「あいまち」を区から区社協への委託事業として事業実施してまいった次第でございます。平成28年3月末時点での会員数は193人となり、男性が23%、女性が77%となっております。平成27年度の取組みといたしましては、一人でも多くの区民の方にご活用、ご協力、またご参加いただけるように、広報紙や区ホームページ等での事業周知を実施してまいりました。

主な取組実績といたしましては、あいまちだよりを2カ月に1度、機関紙として発行させていただきました。年6回発行いたしました。各回平均1,500部ずつ発行しておりますが、区民まつりやいろいろなイベント等にこちらのあいまちだよりを持っていきまして、配布したりしておりますので、そのときは部数のほう、2,000部、

3, 000部という形で配布させていただいております。平成27年11月号の広報つるみでも、あいまちの事業周知をいたしております。ホームページでの情報発信といたしましては、鶴見区のホームページや区社協のホームページで随時情報発信をいたしております。平成28年3月10日に、地域住民同士の助け合いの大切さを知っていただくために、あいまち寄席を開催いたしました。こちら資料3の30ページのところに、ちょっと小さくて見えづらいと思いますけども、あいまち寄席の開催風景を載せております。講談の前にDVDを使いまして、あいまち制度の説明をさせていただいた後、お笑い福祉士の笑福亭學光さんに、まちの支えあい活動とは何でしょうかということをお題として講談していただきました。区民センター小ホールでの開催でしたが、定員200人にもかかわらず、立ち見が出るほどの盛況で、皆さん楽しく笑いながらお話を聞いて帰っていただいた次第でございます。

また、平成28年1月から2月にかけて、3回の連続講座として活動会員の養成講座を行いました。そちらの風景が資料3の30ページ、左下です。基本は3回連続受講ということで、定員15名の枠いっぱい皆さんご参加いただいております。困っている人への対応方法や、高齢者の特性、認知症の理解と対応、また車椅子での介助の方法などを受講していただいております。

以上が平成27年度の主な取組実績となっております。

業績目標といたしましては、利用者アンケートによる満足度60%以上と設定しておりましたが、目標達成状況は95%となっております。

私からのご報告は以上でございます。

**○小谷保健福祉課担当係長** 引き続きまして、5-1-4 要援護者等の見守り支援についてご説明させていただきます。資料2はそのまま9ページの下段のようになります。資料3のほうは31ページになります。

この要援護者等の見守り支援についてでございますが、少子高齢化の進行ですとか社会経済情勢の変化を受けまして、市民生活における福祉課題の複雑化、多様化、深

刻化が進んでおりまして、支援につながらず地域に埋もれている要援護者に対する支援の必要性が大きくなってきているところでございます。

このような状況を踏まえまして、地域と行政が一体となって日ごろからの見守り活動や住民間のつながり、地域の社会資源のネットワークの強化を図るため、地域福祉の推進のため設置されました区の社会福祉協議会に見守り相談室を設置しまして、平成27年4月よりこの事業を開始してきているところでございます。

それでは、お手元資料の3の31ページ、この図が入っているところで、どのような取組みをしているのかお示しさせていただいております。

まず1つ目が、上段の左側でございます。要援護者名簿に係る同意確認、名簿整理ということで、こちらは要援護者、対象者は、平成27年度は高齢者のみでございますが、その対象者に地域等への名簿情報の提供に係る本人の同意の確認を行い、要援護者の名簿を作成するというものでございます。

2つ目でございますが、今度は左の下段のほうになります。機能2 孤立世帯等への専門的対応ということで、こちらは孤立死のリスクが高い要援護者に対して、見守りネットワーカーが訪問し、地域の見守りにつなげるというようなことになっております。

3つ目でございますが、今度は右側の下でございます。機能3と書いているところでございます。認知症高齢者等の行方不明時の早期発見ということで、こちらは認知症高齢者等が徘徊、行方不明になったときに、情報を地域の協力者にメール配信するといった取組みを行ってまいりました。

またお手元の資料2のほうに戻っていただきたいのですが、取組内容の1番下、4つ目ですね。高齢者世帯等を対象に民生委員児童委員やふれあい員と連携し、定期的に訪問し、安否確認ですとかニーズの把握を行うとともに、支援へのつなぎ等を行ってきたというところでございます。

これらの取組内容に対する取組みの実績のほうでございますが、1つ目は2,07

5件の要援護対象者に対しまして、お手紙を送付いたしまして、返送や訪問により1,576件の回答をいただき、同意がありました917件について、各地域活動協議会及び民生委員協議会に情報を提供してきたところでございます。

2つ目、孤立死リスクの高い要援護者等の見守りにつきましては、のべ844件の相談がございました。3つ目の認知症高齢者等の徘徊時メール配信でございしますが、認知症高齢者の事前利用登録10名、それと協力機関等8件の登録がございました。

ちなみに、参考でございしますが、平成27年度鶴見区からのメールの配信は0件でございました。

次に、業績目標のほうですが、同意、不同意の確認達成率30%以上を目標といたしまして、その達成状況は76%となっており、目標達成としております。

申しわけございません、お手数ですが、資料3をもう一度ご覧いただきたいのですが、資料3の右側の上段に要援護者名簿に係る同意確認数を掲載させていただいております。先ほど申し上げました対象者2,075人に対し、回答数は同意、不同意をあわせまして1,576件となっており、回答率のほうでございしますが、こちら資料79.95%と記載しておりますが、申しわけございません。正しくは75.95%。申しわけございませんが、修正をお願いしたいと思います。回答率75.95%でございします。

また、平成28年3月末までの各地活協、民生委員協議会への情報提供は、11地域917件でございしますが、現在では鶴見区内全ての地域12地域1,075件の情報提供をさせていただいております。

今年度は、この高齢者の名簿の更新に加えまして、新たに障がい者も事業対象者として同意の確認作業を進めていく予定としております。要援護者等の見守り支援につきましては以上でございします。

○岡田保健福祉課担当係長 保健福祉課健康づくり担当 岡田と申します。私のほうからは、戦略の5-2 健康づくりへの支援の項目の説明をさせていただきます。

お手元の資料 2 の 10 ページ、同じく資料 3 の 32 ページです。こちらをご覧ください。戦略 5-2 健康づくりへの支援というところでございますが、こちらは、皆様が健やかで心豊かに生活できる、活気のある、活力あるまちを実現するために、国の定めております健康寿命、ある健康状態で生活することが期待される時間という、そうした定義の総評、指標となっておりますのでございます。その健康寿命の延伸というところをめざして事業を行っております。平成 29 年度までに国の平均健康寿命以上を目標に取り組を進めております。

達成状況としましては、国の健康寿命のデータ、指標が平成 22 年調査が最新でございます。28 年度には最新情報が集約されるのではないかとされているのですが、27 年度については全体としても未測定でございます。ただこちらは、がん検診や特定健診等受診率が、市の平均よりも高いという数字がございますので、順調に推移していると考えておりまして、このアウトカムの達成状況に対する評価結果は順調と判断しております。

どのようなことに取り組んでいるかというところですが、幅広い年齢層に運動習慣の動機づけや、よりよい食生活習慣を身につける機会をお知らせするという事で、ご家族で楽しんでもらえるような健康づくりのイベントを開催しております。

27 年度につきましては、健康に関する講演会の開催という項目では、乳がんの検診に関する講演会を実施しました。こちらは平成 28 年 2 月 29 日、区民センターで開催いたしました。鶴見区内にあります大阪市のがん検診の受診取扱医療機関であり、豊富な検査実績もあるということで本田病院の本田院長にご講演をお願いしました。検診の注意点や自己検診の方法などのお話を非常に興味深く、参加された皆さんは聞いておられました。講演の後、マンマモデルという女性の胸の模型を用いて、区の保健師の指導のもと自己検診体験を行いました。

次に、食育フェスタの開催 1 回となっているところでございます。こちらは 27 年 10 月 31 日に鶴見区役所で開催しました。先ほど申しました、安心して子育てがで



というところ、こういう3つの事業実施をもとに国の平均健康寿命を上回ることをめざし実施しました結果、順調に推移していると判断させていただきました。

以上です。

○久木部会長　それでは、一通り説明いただきましたが、多岐にわたっておりますので、もう一回8ページに戻っていただいて、経営課題別に今から皆さんのご意見をいただきたいと思っております。

それで、前回もそうだったんですが、発言ができなかったという意見もございました、できれば質問をちょっと要約していただいて、端的にお願いしたいということで、区のほうもできたら一問一答形式でどんどんしっかり答えていただければというふうに思っておりますので、ぜひご協力ください。

それでは経営課題5-1、これについてご意見等ございましたら。

どうぞ。

○佐藤委員　こうね、見ますと、大分いわゆる行政のほうも一所懸命やってくれてはることがよくわかります。高齢者に対してね。特に認知症に対しての、最近非常に啓蒙というんですか、啓発というんですか、やっていただいてありがたいと思っております。認知症というのはご存じのとおり本人がわからない状態なんですよ、これは。自分が何しているのかわからない状態。これが認知症なんです。特に我々が言うてるのは、昔は老老介護言うてましたね。今は認認介護です。夫婦ともに認知症でね、認認介護ですわ。そういう状態が非常に多いわけです。そういう中で認知症についていろんな啓蒙あるいは啓発していただいてうれしいと思います。

ただし、1つだけお願いしたいことは、啓発のいろんなやられますけどね、ここに来る足がないんです。例えば、この間もある人が、このたび認知症の説明がある。行くかいうたら、会長、それは行きたいけどな、どないして行くねんと。85になるおばあちゃんですよ。行って聞きたいけどどないして行くねん。バス乗ったらええやないかと。バス乗っていくのはいいけども、ここへ来て1時間待って、終わってまた

1時間待って、こういうふうなことやと、なんぼ暇がある年寄りでも難儀やということですね。その辺のこの手当っていうんですか、できないもんやろかと。例えばこういうことやるときには、シャトルバスっていうんですかね、こんなんを出すとかね。あるいは時間をバスに合わせるのはいけたいですけども、バスに合わせてつくとかね。例えば老人会のほうも会合は今まで10時とか10時半とかこういうふうに決めていたんですよ。ところが時計に合わせんじゃなくてバスに合わせようになってね、最近10時45分に集合とかあるいは午後でいえば1時45分に集まろうとかいうふうにバスに合わせて時間をつくって、何とか対応し得るんですけどね。まず、足の問題。行事をつくってくれるのはありがたいんです。うれしいんです。ところが、そこ集まるの、近所の方はいいですよ。もう緑地とか榎本、今津。それから茨田東はわりあいバスがあるんですよ。それから緑ね。うちは1時間に1台ですねん。1台外したら1時間待つ。緑はもっとひどくて2時間だそうですわ。こういうふうにバスの、5人ぐらい、3人、4人で乗ったら、放出からここまで1,000円ちょっとですわ。一人が250円だから行けるやんっていったら、会長、ただで行けるのに何で金出さないかねんというようなことも聞いたんでね。できたら、そういうような配慮という、開始の配慮。それから終わりの配慮。その辺ももうちょっと、1時45分に集まれだって、なかなかあれですので、そういう細かい配慮があってくれたらもっとたくさんの方が集まると思うんです。

**○久木部会長** これについてはどうですか。バスの時間等も配慮して、講演の時間を決めるとかあるいはほかの手だて考えると。そういうことは可能ですか。

**○嶋原保健福祉課長** すみません、後ろからで申しわけないんですが、保健福祉課長の嶋原です。この間、区政会議の中でもいろいろと、このところの意見というのはたくさんいただいているのかと思っておりますが、シャトルバスというのはそこまでの大きな事業という形ではないので、やはり難しいと思っております。ただ、開始時間のところにつきましては、必ずしもできるかわかりませんが、お願いする先生の関係で

あったりとか、その他の要因もありますので即答できる部分ではないんですけど、その辺も含めて開始時間について検討できたらなと今聞かせてもらって思っております。

○久木部会長　　ということで佐藤さん、また。はい、どうぞ。

○笹原委員　　今のでもこの行事をされている中で、本当に今津、榎本の人に来てないのかどうかとかね、そういうデータっていうのはその講演ごとにとっておられるんでしょうか。ずっと何か佐藤さん、バスの件で行きたい講演も行かれないとかってずっと言っておられる中で、この一つ一つの講演がどこの地域の人たちが何%とかね、ずっととっていく中で、やっぱり今津、榎本、緑少ないなっていったときに初めてやっぱりそういうことを真剣に取り組まなきゃいけないところが出てくるのかなと思っているんですけど。一回この間、終活のときなんかは、私たち自転車でも来てもいっぱい入れないくらいだったんですね。そのときもどこがいっぱいになっているのかなって思ったんですね。だから、そのときに榎本、今津の人がいっぱい来てはったのか、緑がいっぱい来ていたのか、そこらあたり知りたいなっていうのはすごく思いました。魅力があれば足がなくなっても何してでも来られる部分があるのかなって。すごく魅力あったんです、終活のときは。だからやっぱり魅力ある行事をつくれば、バス1時間待とうが何しようが来はるんかなとか、そういうふうな疑問もちょっと出たんですけどもね。

○久木部会長　　これ、今言われた件ですけど、僕も思うんです。ちょっといろんなアンケートとるときも、鶴見区って12地域あるわけですから、12地域別のアンケートを集計しておくというのは非常に大事なことやと思うんですよ。どうですか、これ。

○佐藤委員　　初めね、バスの時間何とかしてくれやかましい言うもったんやけど、一向にならんからね、しょうがないこと、バスに合わせないかんいうことになりましたね。負けたんです、バスに。

○岡田保健福祉課担当係長　　岡田です。アンケートは、皆さまおっしゃるようにと

らしていただいて集計をさせてもらっています。確かに男女とか世代ですね、何十代、30代ですか、40代ですかとかいう項目もあるのですが、確かにどこの地域にお住まいですかという項目はアンケートの部分であまりとれてない部分というのはお伺いしてわかったところです。1項目ですし、そういったデータも必要かと思うところですので、工夫してそうしたデータをとっていただければいいと思いました。

**○久木部会長** 一応これも、今後検討していただく。西村委員、何かございませんか。

**○西村委員** 今の話とはまたちょっと変わってくるんですけど、お話ししていただいた中で講演会が非常に多いなと思ひまして、講演会に来ている方というのはそういう項目に関して興味がある方だと思うんですけども、そこにきていただく方への啓発ってということではすごくいいと思うんですけども、ほかのイベントとかもうちょっと裾野を広げて、啓発活動をされたほうがもっと広がっていくんじゃないかなというふうには思ひました。

**○久木部会長** 確かに僕もそうやと思うんです。確かに区でやることは大事なんですよ。アウトカムがもうすごくひっかかるのはですね、これって区でやってこの状況ですよ。このアウトカムには当然地域別にどうやってやるのか、地域にどうやって落とし込むのかっていうのが全然見えない。実際に鶴見区って12万近く人口いるわけですから。そうするとその12万が12の地域に分かれて、それぞれやっぱり地域の特性、住んでる地域もいろんな地域があるわけですから。じゃあ今さっき言われたアンケートで地域別にアンケートとってるのかどうか、アウトカムの達成、どこをめざしてやるのか。例えば3年後にこの地域はここまでやりますとか、要するに地域ではこういう組織を立ち上げて動いてもらうっていうのが、僕はそれがアウトカムやと思うんですよ。これ、西村委員のと多分重なってくると思うんですけど、これどうですか。

**○岡田保健福祉課担当係長** 確かに今のアンケートの部分とリンクさせると、例え

ば福祉系のイベント、例えば健康づくり系のイベントあるいは防災地域活動などのイベントのアンケートで、共通項目を入れておけば、ある程度どこの部分に関心が高いのかというおおむねの傾向というのは出るのかなと思うのですが、実際に一定の興味があり参加されている中での回答なので、好意的な回答傾向がでるかもしれません。しかしながら、区民アンケートのほうではなかなかそういうところまでのデータは取りきれてないところもあるかもしれないので、今までにないデータですので、積み上げていけば部会長がおっしゃるように貴重なデータになり、我々の事業の方向性もある程度見直しも含め検討ができます。毎回この運営方針でも委員の皆さまの意見を聞いて見直しているところですけども、こうした情報というのは多いほうがいいと思うので、ある程度そういったところは参考になるものとしてもいいのかもしれないです。

**○久木部会長** これだけではなく、最後の全部それ言えると思うんです。アウトカムで結果、じゃあ地域に対してどういうことをした。例えばさっきの要援護者についても、やっぱり要援護者っていうのは地域別にどういうふうにもっと実践化していくのかですね、そこをやってもらわないとやっぱり具体性出てこないと思うんです。ぜひこれ、全会で一回検討していただきたいなと思うんです。

すみません、ちょっと要らんこと言って。正脇委員。

**○正脇委員** 特別ただもう、このことについてあまりわからないんで意見はないんですが。ただ個人差の問題もあってね。いろんな考え方があると思うんですけど。

**○久木部会長** ほかの問題でもいいですよ。全体通して。

**○正脇委員** 今、議長言われたように、どういうんですか、アウトカムの問題についてはそういうことだと思うんですけど。地域で実際にこれ取り組むときに、地域で本当に取り組むときに今の組織でええんかなというのが僕は疑問に思っているんです。というのは、助け合い運動だとか、先ほど後で出てくるんかどうかわかりませんが、その中では実際に暮らしの内からね、隣近所、おつき合い、またネットワークという

形で進んでいくんですけれども、それをリードしてやっているのがどうしても今、私、連合の人間なんですけど、連合の人間が旗を振るということになってきますと、やっぱりもともと連合そのものはそういう組織でなかったものですから、ちょっと役員のなり手の問題だとかいろんな問題が複雑に絡んできて実際にはできないと。僕は役所のほうでこれは非常に重要なことだし、今現在はね。役所のほうでもっとリードして、どんどん講演にしろ何にしろね、悪いことはないと思います。いいと思うことについてもっとどんどんどんどんやっていただいて。費用が要りますから、その費用をどう捻出するかというのはまた考えたらいいことであって。費用の問題ありますけど、役所がどんだんこれら問題については、もっとリードオフマンになってほしいなと。そんなような感覚しているんですよね。人の問題についても、イベント張るときには人の問題についてはもっともっと、ボランティアの募集の仕方ね。もっと違う角度で、今やっていることではなしに、もっと違う角度でボランティア活動に興味のある人を、またそれに対して情熱のある話してるのは数おると思うんです、12万人の中には。そういう人たちを少しでも役所のほうが採用するいうんか、メンバー組んでいただいて、鶴見区役所と一緒にやりませんか、助けてください、手伝ってくれませんかと、こういうような形で募集はやっぱりやってね。その人間はやっぱり増やしていくような活動していけへんかったら、地域でやることはやれますけども、それ以上幅は広がらないんじゃないかなというように感じしているんですね。

すみません、えらいただらだらまとまらない話でしたけども。

○久木部会長　いえいえ。

早野さん、遠慮してはるんですか。

○早野副部会長　遠慮してないけど。私が思うことは、これ無理やなって思って。今聞きながらやっているんですけどね。

いや、シャトルバスやない、バスがどやかいうてたから、お迎えのバスなんかちよっとあって、まとめてこうね、運んでやれるようなことがあったらなと思うけど、

それもまたうちのなんかは無理ですわ。なんせお年寄りが多いから。地域の行事のときもほとんど出席されないからね。来ないから、本当に困るんですけども。でも何かの行事のときには皆さんばーっとバスで乗っていつているんですよ。だけど、私ちょっと足悪いからね、とかいう人もたくさんいてるからね。そういうバスが何かこう、区役所にバスがあったらいいのになっていつも言うんですよ。で、バスで送り迎えしてくれたら何ぼでも行けるのになとか言われるから。でも区役所がバス持つわけにいかんしね。100円バスが帰ってきたらええのにな言って。茨田の方もバスは多いんですけどね。ああいう100円の福祉バスが来てくれへんかなっていう話はあったんですよ。何でやめるんやったらちょっと来てほしいわって感じで。そういう乗り物もやっぱり一番大事かなって思ったりするんですよ。

**○久木部会長** 100円バス復活という手はちょっと無理な話なんで。早野さんがまたちょっと考えてもらって。

それではすみません。8ページ、ほかなければ9ページのほう。5-1-3、5-1-4について。この件についてはいかがですか。

あの、僕のほうから質問させてほしいんですけど、この有償ボランティア制度ですけど、これ今、助成金ついてます。で、今193人。助成金なくなったらどうされるんですか、これ。

**○古田保健福祉課担当係長** 28年度の目標も含めてってということですかね。

**○久木部会長** 今後どういうふうに対処されるんでしょうか。

**○古田保健福祉課担当係長** 一応、こちらのほうの制度につきましては、介護保険制度とかいろんな制度が改革してきているので。助けてほしいけど助けてもらえないという方が増えるであろうと思われる中で、少しずつではありますけれども、活用していただける方が増えてきているということも踏まえながら、これをすぐにやめるとか、予算がつかないからやめることにはならないと区としては判断しております。

28年度はこの単体での事業展開ではございませんけれども、28年度はこちらの

制度のほうの運用も継続して行っていくということで判断をしつつ、29年、30年とこの先、この制度がある一定、安定をしていくまで、定着をしていくまでは区として運用していかないといけないということでは思っております。

ただ、当初この制度を発足したときには、自立運営ができるようにということで計画を立てていましたが、それがやはりなかなかうまくいかない中、介護保険制度などいろんな制度が変わってくるという世の中の変動もありましたので、そこは自立運営というのは先の目標として置きつつも、皆さんで寄り添って助け合いながら活動していく制度というものを大事にしつつ、継続していく方向で区としては考えてはおりません。

ただ、お金の問題もありますので。参加者っていうんですかね、これを利用される方とか、先ほど正協委員がおっしゃっておられた活用される世代の幅を広げていくという必要も出てくるかなというふうに思っております。運用も、今の運用が全ていいというわけでもございませんので、その運用のほうも今、1時間単位で、あと1時間を超えれば30分単位で利用ができるという内容ももう少し柔軟に展開して、誰もがもっと利用しやすい制度になるように、今、事業実施、委託しているのが社会福祉協議会ですけれども、そちらのほうの活動として、地域の方へ出て行っていただいて、制度のほうの周知も含めて参画をしていただける方を募っていただいているところなんですけれども、地域のほうの声っていうんですかね、どんなふうな声があるのかということも含めてくみ取っていただいて、この制度、今後どういうふうに展開していくのか検討していきたいなとは思っております。

**○久木部会長** 今、古田係長言われたんですが、何かありませんか。

**○正協委員** 193人は、先ほど言われて、男性がこれ23%とかおっしゃっていましたがね。実際に、これも数を増やさん限りは利用はしにくいという部分がありますけど、その点は結果的にはこのいろいろ広報紙発行したりその中で募集をかけているというだけですね。それ以外に有効な手だてはないということですね。

○古田保健福祉課担当係長 一応、その地域のほうでいろんな機会を活用させていただいて、説明をさせていただいたりとかということもあるんですけども、まずは制度自体を認識していただけないと、何をやっているのかもわからないんです。活用しようとか参画しようとかっていう意識も起こらないと思いますので、例えばこういった広報の仕方を変えて、ウェアであるとかそういうところに「あいまち」というふうに、「有償ボランティアあいまち」であるとか、何か、こういう活動をされておられる方は一体どういったことでやっているのかなとか、目につくように、この制度の名称も含めてなんですけれども、認識をしていただくために目につくように広報をしていきたいなというふうに考えています。

○久木部会長 ほかありませんか。

これ、私自身昔から思ってきたときから言っているんですけど、これを社協も一生懸命頑張っているんですけど、やっぱり社協で、鶴見区全体でやるのがそもそもおかしい、間違っているんじゃないかと思うんですよ。本来、有償ボランティアっていうのは身近な連合単位とか校下単位でやってこそそのニーズ把握もできるし、相手も頼みやすいし、いろんなやっぱりあるんで。そろそろ、だから考えてみないと、これずっと区でやらないかん事業になりますよ、きっとこれ、このままだったら。どういうふうにやっぱりやっていって、ひょっとしたらだんだんお守りせないかんような事業になってくる可能性あるんで。そろそろ制度的に一回見直して、既に各校下単位で有償ボランティア立ち上げてやっているところもあるわけですから、やっぱりそことどういうふうに連携していくか、あるいはもう、区からも各校下単位に、地域に落とし込んで、一回そういう方法も検討してみる必要があるように思うんですけどもね。

○古田保健福祉課担当係長 今後いろんなアンケートも含めてなんですけれども、お声を聞きながら、すぐにそれが転換できるかどうかというのもまだわからないんですけども、今後検討をさせていただきたいと思います。

いろんな方法論があろうかとは思いますが、それは区のほうとしても皆さんの意

見をお伺いしながら、こういった場でもいろんな意見言っていただいて、それをまた中の担当のほうで検討をさせてもらいたいと思いますのでどうぞよろしくお願ひします。

○久木部会長　ほかですね。次、要援護者等の見守りについてはいかがですか。

これは今、どうなんでしょうか、この実態は、各校下別に。今、資料出していってワークしている状況はどうなんでしょうか。効果的に動いているんですか。

○小谷保健福祉課担当係長　ちょうど役員の交代時期ですとか、ふれあい員さんも変わったりとか、そういった時期にあたっていて、今また改めて各地域に入り込んでこの名簿の活用等の説明を順次していっているようなところでございます。

○笹原委員　ふれあい員さんの高齢化がすごいですよね。その中で結局、要援護者をどう援護していくのか。とてもできないという声、やっぱり多いんですね。そこで何か各地域のふれあい員さんの輪っていうのを、若手じゃないけれども徐々に交代しながら、おろしていくっていう言葉はおかしいんですけれども、広げていかなきゃ、本当に老老介護じゃないけど認認介護じゃないけども、そういうふうにはできない、自分がしてもらわなきゃいけないけど、こういうふうにはふれあい員になっているからしなきゃいけない。しなきゃいけないんじゃないんですよね。できる、よっしゃ、っていう世代をもっともっと増やしていかなければ、ふれあい員さんの存在っていうのはだんだんだんだん動かない、固定的なものになってしまって、結局発展性がないのかな、要支援者でお願いしていても、いやー、あかんやろうな、何かあったときは絶対来てもらえないだろうっていう不安もすごく逆に持った状況です。

○久木部会長　答えろって言われても苦しいとこだと。

○笹原委員　いやいや、全体がもう高齢化しているんでね。それも仕方ないことなんですけどもね。

○久木部会長　西村委員、榎本さんなんかはどうですか。

○西村委員　榎本でも、かなりふれあい員が高齢化しているので、この間だともう

動けないおばあちゃんの家にもふれあい員さんが行って掃除をしてきたっていうんですけど、そのふれあい員さんも高齢なので、もう大丈夫かなって思って。私がしたほうがいいんじゃないかなってくらい結構つらそうだったので、そういう状態だとやっぱりどうしても共倒れになりかねないというか。やっぱり下の世代を広げていかないと、このままでは続いていかないなというふうには感じる。

○佐藤委員　今こうやってお話ししていますがね、いわゆる介護の問題にしろ、何しろね。ところがそういう問題全部これ、はっきり言ったら市との関係あるわけですよ。我々がやっている区政会議というのは市のほうとどういうふうに結びついているのか。市とね、この区政会議とか市の議会じゃないですか、それとどういうふうに結びついているのか。それがちょっとだんだんわからんようになってきてね。

○久木部会長　説明してもらいましょうか。

○佐藤委員　区だけだと難しいから。市のことの関係があるのかどうかってあたりを説明してほしいですね。

○泉谷地域活動支援課担当係長　当然、市で考えている制度もございますし、区で区政会議で皆さんの意見を聞きながら、区の予算編成もしていますし、区でこんな事業をやりたいねんということで市に予算要求なり提案なりもしてきているところです。ただそれも、市と区との間でせめぎあいの上でということになりますので、ここで出た意見がそのままそっくり全てというふうなことにはなりませんけれども、以前に比べると随分と区の意見も反映されてきているのではないかなというふうには思うんです。区の職員としても思いますし。今までこういう場もなかったわけで、地域の皆さんの意見が反映されるということもなかったわけですから、少しずつは区と市も近づいてきているのかなというふうに思っているところなんですけど。

○佐藤委員　区だけでね、やいやい言うとしてね、ここで終わってしまうからね、何にもならんわけですよ。市全体が動かんって進みませんよね。

○泉谷地域活動支援課担当係長　私達も当然、上にも上げますし、向こうも国の

制度も下してきますし、お互い。

○佐藤委員 議会の問題もあるしね。ちょっとよろしいか。2時間3,000円で。それからはっきり言ったら金持ってるとかって言われちゃ、我々みたいな老人は金ないさかいね。これ見てたらふだんに空いてるんですよ、運動場なんか。ふだんは午前中とか。そこを例えば使って、僕らのとこやりたいねんけど、3,000円じゃちょっと手が出ませんわね。そういう意味で、何とかまけてくれとか何とか言うたんですけどね。ある議員が、佐藤さん、それな、鶴見だけではあかんねんと。市全体で考えにゃならん。考えたらええやないかと言うたんですけどね。議会でやったらええやんそんなの、3,000円を1,000円にできへんのかいってね。条例で決まっとるのやったら、条例を直すのがおまえらの責任ちゃうんかいってね、やったんですけどね。その辺でこう、何になっていますのでね。

そういう意味で、我々がやっている区政会議が市とどういうふうにつながり、どういうところで役立っているのか、その辺をちょっと、次の機会で結構です。今日は要らるので。説明の中で言っていただければと思います。

○久木部会長 それでは、ちょっと時間もだんだんおしてきますんで、次の10ページのほういかせていただきまして。もう、このページよかったですか。このページ、ほか誰か質問ございませんか。

○正協委員 じゃあ1つだけちょっと聞きたいんですけども。今、27年度は高齢者を対象にしていたという報告を聞いたんですけども、高齢者と孤立世帯が中心になって同意書を集めたと、こういう話ですよ。それをこちらへ還元していただいて、今のふれあい員だとか民生なんかが回ると、こういうことになっていますけれど、実際のところは高齢者でね、同意したい人、現実ですよ、もう、見守りせんでもええような人なんです。あと、これどう進捗されていくんかね。先ほどちょっと説明の中でありましたけど、もう少し孤立世帯の人たちの同意をどういう形でとって、ふれあい員含めてね、どうフォローしていくんかというようなことをもう少し。

それとマンション関係があるんですね。ほとんど同意が得られるとはわからないんですね、実際に。あそこらの対策はどう考えておられんかなど。

○久木部会長　もう一回ちょっと説明、すみませんけど。

これ、同意は区役所のほうから郵送しているんですね。

○小谷保健福祉課担当係長　まずこの事業でございますが、先ほど申しました鶴見区社会福祉協議会のほうに、大阪市が保有している情報をまず社協に渡します。社協のほうでそのリストに載っている対象者、先ほど申しました27年度は、障がい者も含めてしまいますと大変ですので、まずは高齢者のみを対象に27年度同意確認の文書を送らせていただきました。その文書に同意、不同意と意思表示されている分につきましてはそれで結構なんですけど、例えば返事のないところについては見守り相談室のスタッフが訪問しております。訪問して、お会いして、お話しできれば、そのときに同意しますか、情報をお住まいの地域にお渡ししてよろしいですかという同意、不同意の確認をしている状況でございます。会えないところにつきましても、2回も3回も繰り返し訪問しまして、同意の確認とれるまでずっとフォローしているような感じでございます。

○久木部会長　それでは残すところ10分くらいとなりましたんで、最終ページの10ページのほうにいかせていただいて、健康づくりへの支援ということで、この件についてはいかがでしょうか。

笹原委員、いかがでしょうか。

○笹原委員　何かすごく頑張っておられるというのは感じます。やはり健康寿命というか、結局地域に戻して必死に取り組もうとされているというところはすごく感じます。だから健康に関する講演会や食育フェスタの開催も結構、すごく周知されるようになってきたっていうのはやはり力を発揮されているのかなと思うんですけども、結構指摘の目が。

○久木部会長　岡田さん、これ健康寿命の定義はどうなんですか。

○岡田保健福祉課担当係長 一口で言えないところがあるんですが、先ほど冒頭でも申しあげたとおりで、健康な状態でどれだけ生活できるかと期待される平均の期間や指標、総評を指しますという、そういう大まかな感じなのですけれども、その指標として3項目挙げられているところがあります。1つ目に日常生活に制限のない期間の平均。2つ目で自分が健康であるということを実感できる期間の平均。3つ目として、日常生活の動きとか動作とかいうところの自律できている期間の平均という、その3つになります。

○久木部会長 今お聞きしたのは、そうすると目標達成状況というのは、そこら辺が中心になるんじゃないんですか。講演会をやった回数とか、ウォーキングの回数じゃなくて。

○岡田保健福祉課担当係長 健康寿命の延伸をめざすために、健康づくり担当としてどういうことをやっていこうかということですが、自己評価シートにもありますが、健康に関する啓発、今年度については乳がんの検診に関する講演会ということ企画し、実施しました。

○久木部会長 色とりどりやってくれているのはすごいわかるんですけども。

○笹原委員 健康寿命ってね、だからそこまで決定的なところの意識でこの88%っていうのを出すのはやっぱり問題はあるんですけど、行事に関しては周知力とか、健康寿命っていう本当皆さんが受け取っている自分で発信できる。

○久木部会長 また、わかるんですよ僕も。やることが大事ではなく、やって結果どうなったかというのが多分大事。

○笹原委員 その意識が高まってきている部分はすごく感じると思うんですけども、感じているから。

○久木部会長 もしそうであれば、こういうのはまたさっきと同じなんですけど、それぞれ12の校下で、この結果どうなりましたか、その結果はどうなりましたか、あるいは食事サービス1回しかやってないところは2回にしましたとかね。あるいは何

か健康にいいプログラム立ち上げましたとか、そういうふうの結果としてあらわれてきて初めてやっぱり検証できるんじゃないんですかね。

○**笹原委員** これって今日やったから明日結果が出るもんじゃないです。こういう自分たちの健康の分。その意識は変化は出てくるけども、実際問題これしたから次の地域でって。

○**久木部会長** だから僕が言うのは、すぐやれじゃなく、意識として常にそういう意識を持ってやっぱりやっていただかないと、僕はやっぱりいつも言うんですけど、仏つくって魂入れずになっていく。

○**笹原委員** この1年間やって、来年度じゃあどうなのかっていうところを。

○**久木部会長** 来年度に向けてできればいいんですけど。アウトカムとして、今年度こういうことで目標達成しましたよって、そこで満足されたら。

○**笹原委員** 満足はされてないと思いますけども。

○**岡田保健福祉課担当係長** そうですね。今、笹原委員がおっしゃられたように、今日やったから明日すぐ健康になるということではないので、今まで動機づけ支援を健康づくりについては目標にしております。継続して、同じことをずっと続けるというのも大事ですし、目に触れる、耳で聞けるとか、ふだんの生活の中でそんなこともあるのかという気づきなど、できるだけ自分の健康に意識を持っていただくという動機づけの支援になりますので、市の目標としては国で定めている健康寿命の延伸を目標に取り組んでいこうということです。健康局というところになります。健康寿命の延伸という目標は区につながっておりますので、同じ目標を持って区としても取り組んでいこうと。継続して、すぐ来年やめるとかではないので、おっしゃるように継続してそのときどきの考えで取組みを進めていこうと思っております。

○**久木部会長** 僕が言いたいのは結果として、今まで私たちはいろんなことを行政に頼り過ぎているんです。だけど、このままいくとやっぱり高齢化はどんどん進む、お金も足りなくなってくる、そうすると自分たちが何かせないかん、自分たちがせな

いかんってことに目覚めてもらわなあかんわけ。だからそのことに対して、もしできるのであれば行政はそういうことを支援するように、地域が自分でやれるように支援していただくというのが本来のやり方かなと。決していいかげんにやっているとかじゃなくて一生懸命やってくれるのはわかるんですけど、アウトカムっていうのはそこに目標を置いてやってほしいなっていうのは僕の考えなんですけどね。

○早野副部長　　今、もう指導する人が高齢者になっているもんね。うちなんかも高齢者ばかりやからできへん。

○久木部長　　どうですか、経営課題2の地域コミュニティ活性化は。佐藤委員、榎本さんはどうですか、老人会中心に。

○佐藤委員　　ないですね。

○久木部長　　早野さん、さっき言いかけて終わりましたけど。茨田東はいかがですか。

○早野副部長　　うちを活性化したらちょっと年寄りばかりだからね。何とも言えないわ。どうしたらお年寄りを引っ張り出してしようかなと思うけど、皆さんもう、足腰悪いでしょう。だからなかなか出てこられないしね。何かやろうと思ってもお年寄り引っ張り出すことなかなかできないもの。で、行かないと、孤独死じゃないけど倒れていたりとかあるでしょう。ご飯なんかは昨日から食べてないねんとか言うのと、あたらしく作って持って行って、食べようって言って食べさすんだけど。

○久木部長　　地域活性化って一番最初にやっていたことなんですよ。これについてお願いしたいのは、この達成度67.4%で小谷係長は前年度より大分上がったってことなんですけど、これこそ地域別に達成度を出していただかないと、榎本さんなんかはどんと進んでいるわけですから、区平均のアンケート結果が正しい数字とは僕思えないんで。逆にこれは地域別にやっていただく必要はあるんだと思うし、また地域別にプラン立てていく必要あると思いますよ。A地域、B地域、C地域それぞれ分けて、A地域はここまで達成度持っていくとか、あるいはここまで持っていくと

かっていうような指針づくりって地域別にやる必要はあるんじゃないかと思うんですけど。

○笹原委員　そうですね。緑なんかはすばらしいと思います。

○久木部会長　いえいえ、そんなことはないんですけど。

○小川地域活動支援課長　区民アンケートではとっています。

○泉谷地域活動支援課担当係長　クロス集計すれば地域ごとのデータが出ます。

○小川地域活動支援課長　無作為抽出のため、人口の多いところはそれだけ数が多く集まってきたりしますが、地域別にはとっていますので分析は可能です。

○久木部会長　多分よくご存じだと思うんですけど、そこら辺が出てこない、この数字っていうのはちょっと化けてるなあというふうな気がするんですけど。何か言うて下さいよ。違うでって言うて。

○泉谷地域活動支援課担当係長　区の数字としてはこれですけど、地域ごとのアンケートも当然とっていますし、地域の方からの意見も聞きながら、私たちも地域に入ることで、地域に応じた支援なりお手伝いなどをこれからも継続していきたいというふうに考えています。

○久木部会長　1つ言わせていただくと、公金の使途を区のホームページだけでやっているっていうのもちょっと疑問ですね。地域ごとにちゃんとやっていただかないと、区のホームページだけ見ても地域の人にはわからないかと思うんですよ。多分、広報しか見てない人もいるわけですし。区のホームページで公表、12地域全部しましたよ、でオーケーでは僕はないというふうに思うんですがいかがでしょうか。

○佐藤委員　地域によって差がありますわね、温度差が。それがやっぱりネックになっていると思うんですよ。あるところは上がっている、あるところはこの辺ある。だからそのネックはね、これが埋まらん限り、いわゆる鶴見区として一緒になっていこうというふうにならんわけですよ。ある区ではこんなの要らんやないか、ある区ではがばっと上がるとる。こういうふうな状況が何かこうあれやなという感じがしますね。

だから皆一緒になっていくこともありませんけどね、ある程度一緒にならんとね。そうしないと、せっかくやることがちぐはぐになってしまうんでね。あそこは頑張っているけど、うちは走れへんねん、そういうの、変なことになってきますんでね。その辺は行政も考えますよって、調整っていうのかやっていたくというようなことを。うちの泉谷さん、よう来てくれはるのでようわかっていると思うけども。いろいろありますけどね。

**○泉谷地域活動支援課担当係長** 地域間のでこぼこの幅をちょっとずつ狭めていくように。

**○佐藤委員** そうせんと、何かしようと思ってもできないですよ。やっていける地域とそうでない地域があるわけでしょ。それがやっぱりネックになつとると違いますか。

**○久木部会長** 時間も迫ってきたんで、西村委員、最後何かありませんか。

**○西村委員** C B / S B に関する事で、みつるぎの里に5月から行っているんですけど、今登録が4名ということで、ちょっとずつ増えてきている状況で。みつるぎの里ができたことによって、今まで福祉会館とかで活動されてない地域の方とかも見学に来ていただいたりしていて、C B とか S B を地域がするっていうことに意味はあるんだなっていうふうに今、まだ1カ月ちょっとになりますけど感じています。

**○久木部会長** 榎本さんのほうでソーシャルビジネスをやっておられるということで、私も1回見させていただきました。

そろそろ時間ですけど、最後、もしまだ言いたりないことがあったら。

それでは少し時間を過ぎましたが、これで終わりたいと思います。最後に事務局のほう何かありましたら。

**○泉谷地域活動支援課担当係長** 今日は本当にたくさん、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。今後の区政、または市政にも提案していけるような形でいろいろ検討していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

もう一度、最後に評価シートについて確認をさせていただきたいと思います。具体的取組についてわかる範囲で結構ですのでご記入の上、ご提出をお願いします。右の下にお名前を書いていたところが各ページにあります。ひとまとめにしていたら一番上だけご記入していただくだけで結構ですので、6月末までに区役所4階の総務課までよろしくをお願いします。事前にメールアドレスをお知らせいただいている委員の方々につきましては、評価シートのデータをお送りさせていただきますので、メールで提出していただいても結構です。事務局からは以上になります。

○正協委員　　これ2と5だけ書いたらいいという意味やね。

○泉谷地域活動支援課担当係長　　2と5を中心にですが、他の課題でも今日のようにいろんな議論がなくても、このことやったら知っているとか、このことやったら判断できるなということがあれば、丸とか三角とかつけていただいて。

○正協委員　　ほんならこのホッチキスしたまま出したらええということね。

○泉谷地域活動支援課担当係長　　はい。わからないところは空白で結構でございます。

○久木部会長　　それでは、ちょっと時間オーバーいたしました。第1回鶴見区区政会議地域コミュニティ・保健福祉部会はこれで閉会といたします。

どうもありがとうございました。

閉会　20時58分